



新卒で入社した会社が経営破綻した片岡宗太さん。次に選んだのは宮崎に本社を持つ(株)西部技建コンサルタント。そこでは福岡支店の立ち上げに関わり、事業の成長に欠かせないひとりとなる。業界15年目となる今、片岡さんの仕事にける思いを伺った。

●この職業を選んだきっかけ

建築関係の仕事をしていた父の影響で、構造物は身近な存在でした。そのため、大学は工学部建設工学科に進学。大学院では構造力学の奥深さに触れ、設計に興味を持ち始めました。その頃、地元の伊万里市に「伊万里湾大橋」が開通。橋がもたらす経済効果に、地元住民の生活が変わります。橋のパワーを目の当たりにし、気付けばこの職種を選んでいました。

●職場の魅力や責務

私たちの仕事は、インフラに直結するため社会に与える影響が大きく責任がともないます。これがやりがいでもあり、最大の魅力です。使用目的の違いで建築は「点」、土木は「線」と例えられます。橋は道路の一部であり、その道路すべてができて初めて意味を成します。設計は道路全体で考え、自分の携わる橋だけがあっても意味を成さず、逆に、自分の携わる橋だけがなくても線は途絶えず、すべてが無価値の生産物になる。また、サイズ・予算が大きく、一品受注生産であることも魅力です。新しい業務を受注するたびにワクワクします。

●仕事のこだわり、ポリシー

設計上のこだわりはいくつかあり、そのひとつにアートの要素(外観の美しさ)があります。機能美に優れた橋は強固・安全な作りを極めていますが、少しでも見た目に違和感があると、構造的に無理をしているものが多い。この「引っかけ」が生まれにくいように、安全・安心と美的バランス感覚を意識しています。それには、多くの現場に行き、橋梁がもつ美しさを肌で感じる事が大切。アイデアに偏りが生まれにくいよう、さまざまな種類の本を読み、定期的に美術館へ行くなど、多方面に感覚を研ぎ澄ましています。

担い手シリーズ31

目標は、さまざまな種類の橋に精通したオールラウンドな技術者

片岡 宗太 入社9年目(技術士:建設部門/鋼構造及びコンクリート、建設部門/施工計画、施工設備及び積算、総合技術監理部門)

株式会社西部技建コンサルタント



●仕事上で印象的なエピソード

社会人2カ月目に「トラス橋の3次元動的解析、道路橋示方書に準じて部材の照査」を任せられました。「示方書どおり」という指示でしたが、そもそも、示方書を見たこともなかった。それでも毎日示方書を熟読、3次元モデルや複雑な照査式をエクセルで作成し、答えを導き出しました。仕上げたときの喜びは忘れられません。高い壁を乗り越えた苦勞は、今の自信につながっています。

●今後の目標

橋の専門医(総合病院)として、多様な種類の橋(コンクリート橋、鋼橋、維持管理など)に精通した技術者になるのが目標です。次世代へ技術をつなぐため、若手の指導や育成にも積極的に関わりたいと思います。

それから、建設業のAI導入が加速しています。担い手問題、業務改善や品質向上など期待がかかる分野です。広く汎用される日も遠くない。だからこそAIの特徴を学ぶ必要があると考え、ジェネラリストの資格(一社)日本ディープラーニング協会)を取りました。人工知能を知る基礎部分の資格ですが、活用方法を独学ではなく外から学ぶことで理解を深められます。技術革新の波に乗り遅れることのないよう、今後もアンテナを張っておきたいと思っています。



片岡宗太(かたおか そうた)
伊万里市出身。九州大学大学院工学府建設システム工学専攻修了。
平成23年4月(株)西部技建コンサルタント入社

会社概要
(株)西部技建コンサルタント福岡支店
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-11-15-701
TEL.092-409-3188 FAX.092-409-3187
<https://seibugiken-c.com>